

育児休業に関する体験記 8

30代 84日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

ふたごということでわからないことだらけでした。子を迎え入れ、どのような生活になるのか想像がつかなかったため、特に作業分担などの決め事は行っていません。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

仕事に出ている時間以外は、休業中と変わらず家事・育児のサポートを行っています。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

家事・育児を自ら進んで積極的に行っていました。私と変わらず何でも出来るので、用事があり留守にする際も安心して任せることができます。育児としっかり向き合い、私たち夫婦にとって大変有意義な時間になりました。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

出産予定日の半年以上前から上司に育児休業を取得する旨、相談を行い休業期間に仕事が重なることがないように配慮していただきました。仕事を残すことがないように、完了した案件は速やかに処理するよう心掛け日々、行いました。

2. 評価・反省

引継ぎが0になったわけではありませんが、数件の引継ぎにたいしても期間に余裕を設けていただけたので、大きなトラブルもなく休業を迎えることができました。

③自由記述

出産から3ヶ月間の育児休業を取得させていただきました。妊娠33週6日でのふたごの誕生、早産児・低出生体重児ということで生まれてからの1ヶ月間はNICU/GCUに通う毎日となり、その期間は2人を迎え入れる上でとても意味のある時間となりました。

誕生から数日後、新型コロナウイルスの感染拡大による面会の規制も緩和され当初は夫婦別々での子との面会でしたが、時間制限はあるものの夫婦揃っての面会が可能になりました。病院では、ミルクを与えることから始まり、暖気の出し方・おむつ交換・綿棒浣腸や沐浴の方法等、通常退院してから自宅で手探りで行うようなことを繰り返し指導していただきました。

1ヶ月の入院期間を経て家族4人での生活が始まりました。1日数時間の面会のための病院通いと24時間共にするのでは生活が大きく変わりました。ふたごのため当初は、張り切って夫婦付きっきりで面倒を見ていましたが、長くは続きませんでした。これでは夫婦共倒れになると感じ深夜から朝まで、朝から正午まではどちらか一方が休息を取るようになり、育児が行いやすいよう家具の配置換えを行ったりもしました。この2ヶ月間は、育児休業がなくては成しえないものでした。

1日があっという間に過ぎてしまう毎日でした。育児休業のおかげで2kg弱だった2人が5kgを超えるまでにと、多くの時間を触れ合えることができました。夫婦、子供たちにとっても大変重要なことだと感じています。

育児休業を取得していることに対しては「3ヶ月！素晴らしい会社だね」という周囲の反応がほとんどでした。会社への感謝を改めて感じるのと同時に男性の育児休業が浸透していない実情に、もどかしさを感じ

ました。休業中の給与補償の制度改革は進んでいますが、企業側は取得の制度をただ確立するだけでなく取得を後押しする「雰囲気作り」が非常に重要だと思います。私の場合は復職後もあたたかく迎え入れてくれました。そんな企業が増えていくことを望んでいます。

休業が明けて1ヶ月が経過、私が仕事に出ている日中は2人の育児に奮闘している妻がいます。妻への最大限の敬意と2人のわが子への愛情をこれからも持ち続け、成長を見守りたいと思います。